

廿日市市長

松本太郎

未来が おもしろい

市長インタビュー

松本たろう後援会では、就任4年目となる松本太郎 廿日市市長に市政にかける思いや今後の展望についてインタビューしました。

1 市長就任から現在まで

一市長任期4年目を迎えていかがですか

令和5年は、私がいただいた市長任期の最終年となります。令和元年11月の市長就任直後から、新型コロナウイルスの対応を迫られることになりました。私はもちろん、ベテラン職員も経験したことのない未曾有の有事であり、先の見えない中で困難な選択・判断が続きました。

一就任以降、市長自身の中で何か変化はありましたか

コロナ禍の3年半の間、私は、あらゆる状況に対応できるよう想像力を高め、緊張感と危機感を失うことのないように気を付けてきました。この時間は市政をお預かりするリーダーとしての経験や覚悟、さらには未来を想像する力を飛躍的に向上させてくれました。この経験を活かし、市民の生命、生活を守るとともに、未来を見据えながら、次世代に胸を張れるような街づくりを進めていきます。

3 次なる大きな挑戦

一さらなる課題克服に向けて、今後も大きな挑戦が続くと聞いています

廿日市市に以前からある大きな課題が、市中心部の住工混在です。そのため既存の事業者が設備投資をすることもままならず、商業施設や高層住宅などの新たな事業者の進出意欲があるにもかかわらず候補地がなく断念せざるを得ないという、大きな機会損失をしてきました。

そこで、新機能都市開発、未来物流産業団地と2つの開発事業に道筋を付けました。新たな事業用地に移転後の企業は設備投資を進めるとともに、新たな人材を雇用することにもなるでしょう。税収の増加はもちろん、市内経済の活性化にも大いに寄与することになります。併せて、企業が移転すると、広大な空き地が発生します。こうした土地のほとんどは市中心部の絶好の立地条件にあり、移転後の跡地を所有者と連携しながら新たな市街地整備のための「種地」にします。

一楽しみな構想ですが、具体的なイメージをもう少し詳しく教えてください

新機能都市開発の完成が令和8年度末、未来物流産業団地は9年度末の予定です。このタイミングで企業は移転しますので、同時に市街地整備に取り掛かっていきます。高層の集合住宅や緑豊かな公園、さらには公共施設の機能も有した商業施設などを一つのエリアにバランスよく配置することで、魅力的な街並みに変貌します。この「まちの作り変え」は、ヒトやモノを集積させることで効率性や生産性を高め、人口減少の影響を受けにくいまちへと形を変えるための大きな挑戦と捉えています。

2 変化する社会情勢の中で

一これからの行政はどうあるべきと考えますか

いま社会は過渡期を迎えています。様々な仕組みや価値観が大きく変わり、これからは過去の経験だけでは解決できない課題が増えていきます。そんな社会の変革が猛烈なスピードで進む時代に行政に求められることは、失敗を恐れることなく果敢に「挑戦」する姿勢と、未来を想像しながら柔軟に「変化」することだと考えています。

一確かに廿日市市は積極的に新しい事に挑戦するイメージがあります

挑戦の大きな成果として、今年10月から徴収を開始する宮島訪問税をあげるべきでしょう。世界遺産の宮島を維持・継承していくために新たな財源が必要であることは、以前から皆が認識していました。そこで、税制度を導入すべきかどうか、市長選挙の最大の争点といわれ、当時は市議会や市民を二分する議論となりました。当選後、私は自らの言葉でその必要性を語り、粘り強く丁寧な説明をしてきました。

現在では議会はもちろん、市民のみなさんにも宮島を守るための安定的な財源として、訪問税の徴収にご理解いただいているように思います。

一新たな取り組みへの挑戦のために重要なことは何でしょうか

新たな取り組みを始めるには「戦い」といっても過言ではないくらい大きなエネルギーが必要になることもあります。リーダーに戦う覚悟と勇気がなければ何も変わりません。さもなければ、職員にいくら「挑戦しよう」といっても届きません。これからも私自身が覚悟を示すことで、市役所全体の「挑戦の機運」を高めていきたいですね。

MIYAJIMA

宮島 10/1 訪問税

宮島を次世代に継承するために
2023年10月1日開始



4 人口減少への対応

一広島県の転出超過人口が全国で最多となったことがニュースになりました

令和4年の広島県の転出超過人口が約9200人と全国でワースト1になったというニュースは非常にショッキングでした。

県内の基礎自治体の多くが転出超過となる厳しい状況の中で、廿日市市は転入超過、さらに県内で転入者数が第1位という高い評価をいただきました。

これまで子どもの医療費の助成拡大や保育園の民営化などにより、子育て支援策を充実させてきたことが背景にあると考えています。また、まちづくり全般においてバランスよく戦略的に取り組んできた成果だと思えます。

令和4年転入超過数 県内第1位、中国地方第2位

表：中国地方の自治体における1年間の転入超過数 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

順位	自治体	令和4年転入超過数(人)	令和3年転入超過数(人)
1	山口県防府市	283	-135
2	広島県廿日市市	238	174
3	広島県海田町	133	10
4	広島県熊野町	105	67
5	岡山県浅口市	101	-36

一自治体間競争という言葉をよく聞きますが、この現状をどう捉えていますか

人々が住みたい街に転居することに対するハードルは、以前と比べかなり低くなっています。この傾向は子育て世代でより顕著で、移住先を探す子育て世代をターゲットに各自治体が魅力的な政策を打ち出し、転入者の獲得に躍起になっています。まちの活力を維持するには若い世代に「選ばれるまち」にならなければいけません。そこで廿日市市では、子育て支援策はもちろん、若い世代にとって魅力的な街となるよう様々な施策を展開しています。

子育て世代から高齢者まで多世代に幅広くご利用いただいている
フジタ・スクエア「まるくる大野」

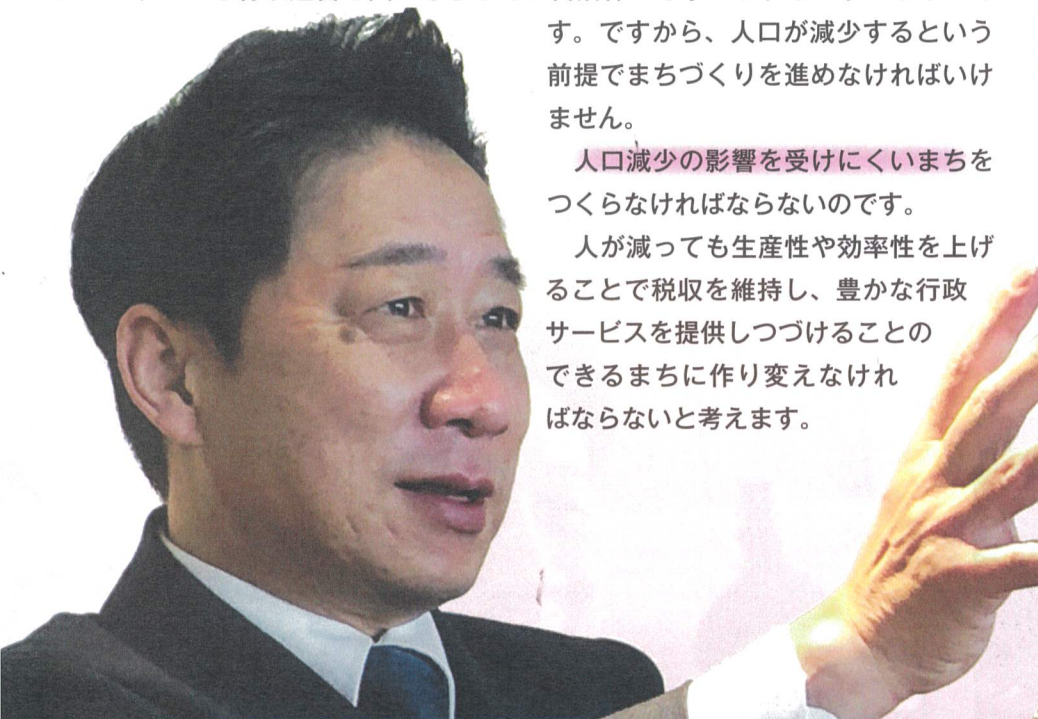


一高い評価の廿日市市の今後のまちづくりをどう考えますか

廿日市市の人口は、現在ほぼ横ばいで推移していますが、中長期的に見れば人口減少は不可避です。しかも問題は人が減ることだけではありません。2040年あたりまで高齢者が増えることで社会保障費などの負担は大きくなるばかりです。一方、生産年齢人口が減り続けるので税収や経済的な生産額は減り続けます。このように収入は少なくなるにもかかわらず、支出はより大きくなっていくというアンバランスな行政運営を国はもちろん、自治体にも求められるようになるのです。ですから、人口が減少するという前提でまちづくりを進めなければいけません。

人口減少の影響を受けにくいまちをつくらなければならないのです。

人が減っても生産性や効率性を上げることで税収を維持し、豊かな行政サービスを提供しつづけることのできるまちに作り変えなければならぬと考えます。



廿日市市長

松本 たるう

5 「選ばれるまち」であるために

一令和5年度がスタートします。これから市内外に向けどういった魅力をアピールしますか

社会情勢が大きく変化し、行政に求められるものも変化し多様化しています。こうして求められるものに積極的に対応していくとともに、未来を想像しながら様々なことに挑戦する姿を見ていただきたいですね。

[1] DX (デジタル・トランスフォーメーション) の推進

デジタル技術によって社会の変革や行政サービスの向上を目指すDXの推進では、様々なメニューを開発し新たなサービスとして提供しています。

今後、私たちが目指す市役所の究極の姿は「行かなくてもいい市役所」です。

デジタル技術を駆使して、いつでも・どこでも・24時間・365日、行政手続きができる市役所を目指し、準備をすすめています。



[2] 「ゼロ・カーボンシティ宣言」



廿日市市は地球温暖化対策の推進のため「ゼロ・カーボンシティ宣言」を昨年6月に宣誓しています。

今後は、電気自動車、省エネ・再生可能エネルギー設備の導入などを積極的に推進し、2050年カーボンニュートラルの実現を目指します。

4月にはG7広島サミットを前に「宮島ゼロカーボンパーク登録」を行いました。国際観光地の宮島において脱炭素に向けて取り組むことを宣言することで、廿日市市が環境問題に意識高く取り組む姿を世界のトップに発信する絶好の機会となると期待しています。

[3] スポーツのまち廿日市市

廿日市市は、スポーツのまちとしても脚光を集めています。スポーツには人の心を動かし、前向きな人生をサポートしてくれる力があります。女子野球タウン認定をいただき、プロバスケットボールチーム・ドラゴンフライズの練習拠点を誘致し、サッカーやアーチェリーも盛り上がりを見せています。

そこで、令和5年度から、佐伯総合スポーツ公園野球場の本格的な再整備に取り組みます。佐伯地域がスポーツの拠点として大いに盛り上がることを期待しています。

佐伯総合スポーツ公園野球場 改修イメージ



6 目指す廿日市市の姿は

一インタビューの最後に、松本市長が目指すまちの姿を教えてください

つよくて、やさしいまちです。多くの人から選ばれ、人口減少期においても持続可能性を高めることのできる「つよさ」を持ちながら、誰でも、どんな立場の人でも、また、いかに社会が変化しようとも、安心して住み続けられる環境の整った「やさしい」まちにしたいと考えています。

実は、その想いは、私のイメージカラーに出ています。私は、平成17年の市議会議員初当選以来、2色のイメージカラーを使い続けています。1つはブルーで「つよさ」をイメージしています。もう1色は、ピンクで「やさしさ」をイメージしています。

廿日市市を「剛くてやさしいまち」にしたいという想いは、今ではさらに大きくなっています。

一廿日市市の今後に期待しています。本日は有難うございました。

未来が おもしろい